

# 俳句

## 1年目 ステップ6



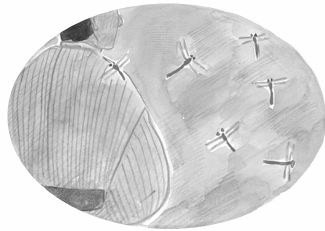
おんせい  
音声はこちら

あま や 海女の屋は こ え び 小海老にまじる いとどかな  
まつ お ば しょう  
松尾芭蕉



かた き 肩に来て ひと 人なつかしや あか 赤とんぼ

なつ め そう せき  
夏目漱石



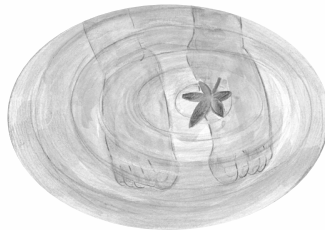
あらうみや さ ど よこ 佐渡に横たう あま がわ 天の川

まつ お ば しょう  
松尾芭蕉



ゆ そこ 温泉の底に わ あし み 我が足見ゆる け さ あき 今朝の秋

よ さ ぶ せん  
与謝蕪村





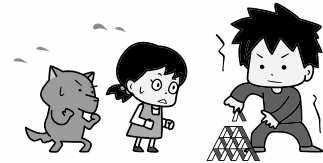
おんせい  
音声はこちら

# 慣用句

## 1年目 ステップ6

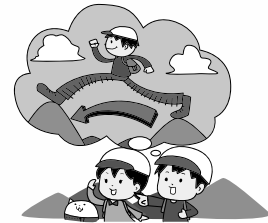
て あせ にぎ  
手に汗を握る

いっ たい よう す  
一体どうなるのだろうとはらはらしている様子。



あし  
足をのばす

よ てい ところ とお い  
予定していた所よりも遠くへ行く。



かた なら  
肩を並べる

おな てい ど ちから も たいとう い ち た  
同じ程度の力を持って対等の位置に立つ。



ねこ ひたい  
猫の額

と ち よう す  
土地などがとてもせまい様子。



まと い  
的を射る

い けん ひょうろん ようてん  
意見や評論がたくみに要点をつかんでいること。





# 《動詞の活用》

動詞の活用 種類は五つ

ご だん かつ よう  
五 段 活 用

こ と ば さい ご  
言 葉 の 最 後 が

アイウエオの

ご だん かつ よう  
五 段 に 活 用

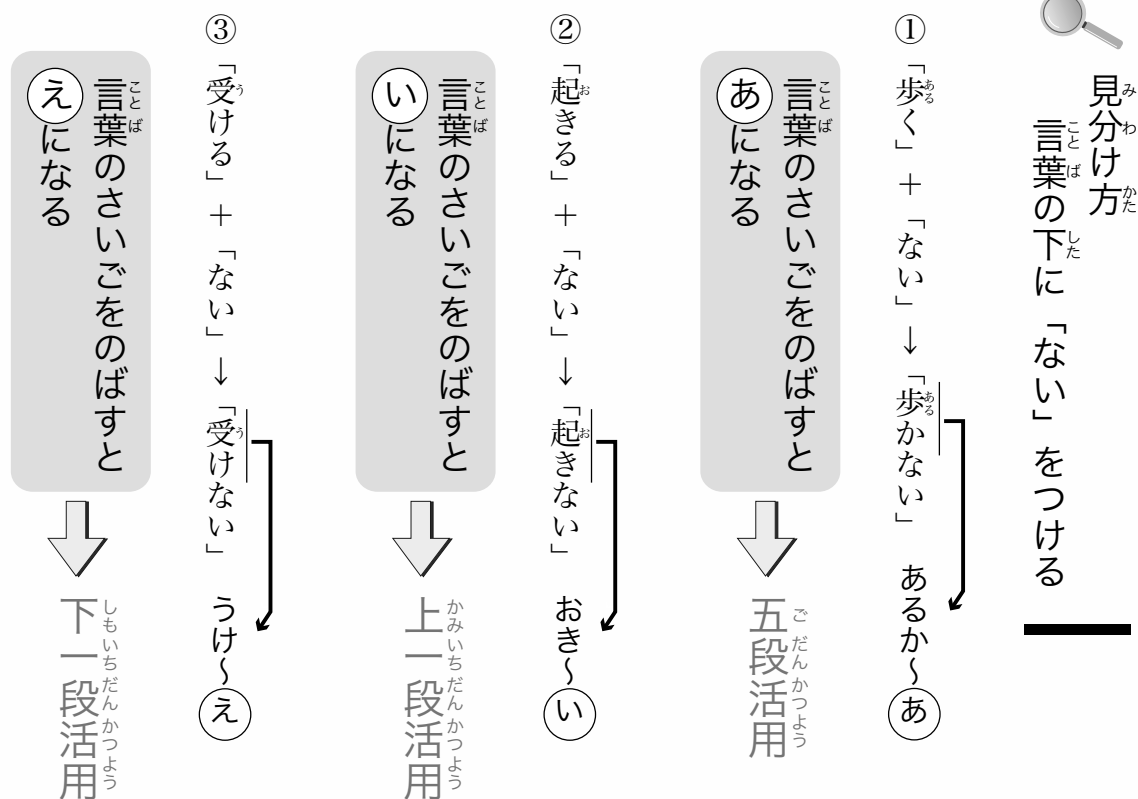
かみ いち だん かつ よう  
上一段活用 語尾に イ段の音がはいります

下一段活用 <sup>しもいち だんかつよう</sup> 語尾に <sup>ごび</sup> エ段の音 <sup>だん おと</sup>がはいります

ぎょうへんかくかつよう  
力行変格活用 こ き くる くる くれ こい

ぎょうへんかくかつよう  
サ行変格活用 せ し する する すれ せよ

力変 サ変は 不規則に變化する





おんせい  
音声はこちら

ことわざ

1年目 ステップ6

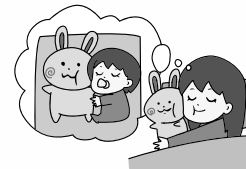
よ たいじゅ かげ  
寄らば大樹の陰

いきお 勢いのある者<sup>もの</sup>を頼<sup>たよ</sup>る方<sup>ほう</sup>が安全<sup>あんぜん</sup>であり、利益<sup>りえき</sup>も多い<sup>おお</sup>ということ。



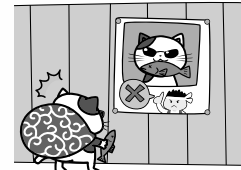
すずめひやく おど わす  
雀百まで踊り忘れず

ようしょうき 幼少期に身に付いた習慣<sup>しゅうかん</sup>は、年<sup>とし</sup>をとっても改<sup>あらた</sup>めにく<sup>く</sup>いということ。



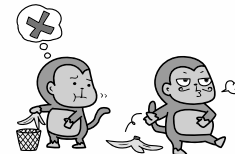
あくじ せん り はし  
悪事千里を走る

わる ひょうばん 悪い評判はいくら隠<sup>かく</sup>してもすぐ<sup>ひろ</sup>に広<sup>ひろ</sup>く知<sup>し</sup>れ渡<sup>わた</sup>るということ。



ひと み わ なお  
人のふり見て我がふり直せ

ひと 人の良<sup>よ</sup>いところを<sup>み</sup>て、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の行<sup>こう</sup>動<sup>どう</sup>を反<sup>はん</sup>省<sup>せい</sup>し、欠<sup>けつ</sup>点<sup>てん</sup>を改<sup>あらた</sup>めろということ。



いっ せき に ちょう  
一石二鳥

ひと 一つの<sup>ひとつ</sup>ことをして、同<sup>どう</sup>時<sup>じ</sup>に二<sup>ふた</sup>つの利<sup>り</sup>益<sup>えき</sup>や成<sup>せい</sup>長<sup>ちよう</sup>を得<sup>え</sup>ること。



もと あつ わす  
のど元<sup>もと</sup>すぎれば熱<sup>あつ</sup>さ忘<sup>わす</sup>れる

くる どんなに苦<sup>くる</sup>しい経<sup>けい</sup>験<sup>けん</sup>も過<sup>す</sup>ぎてしまえばけろりと忘<sup>わす</sup>れてしまうこと。



# 百人一首

## 1年目 ステップ6



おんせい  
音声はこちら

天<sup>あま</sup>  
雲<sup>くも</sup>つ 風<sup>かぜ</sup>  
の  
を<sup>お</sup>通<sup>かよ</sup>  
とめ 路<sup>じ</sup>  
の  
姿<sup>すがた</sup> 吹<sup>ふ</sup>き  
しばし 閉<sup>と</sup>ぢよ  
とどめ む<sup>ん</sup>

(僧<sup>そう</sup>正<sup>じょう</sup>遍<sup>へん</sup>昭<sup>しょう</sup>)

わ  
八<sup>や</sup>た  
十<sup>そ</sup>の  
人<sup>ひと</sup>島<sup>しま</sup>原<sup>はら</sup>  
に かけ  
は 告<sup>つ</sup>げ  
よ 漕<sup>こ</sup>ぎ  
海<sup>あ</sup>人<sup>ま</sup>の 出<sup>い</sup>で  
釣<sup>つり</sup>と  
舟<sup>ふね</sup>

(参<sup>さん</sup>議<sup>ぎ</sup>篁<sup>たかむら</sup>)

